



池田町の木は、山桜に指定されており、毎年4月になると大津谷や霞間ヶ溪公園では、多くの花見客で賑わいます。

宮地小学校では地域の方々とのつながりのなかで「美濃池田さくらを育てる会」が設立されています。代表の河村望さん（願成寺）にインタビューしました。



1. 「美濃池田桜を育てる会」を立ち上げたきっかけは

昭和62年5月に宮地小の5年生が「池田町みどりの少年団」に入会すると同時にふるさと学習の場として発足。子供たちが種から桜の木を育てて、池田山全山を桜の木で埋め尽くしたいという思いから、先生や地域の方々の協力のもとに取り組み、継続的に活動するには組織化する必要があると感じた。

2. 今までの活動内容

苗木を育て町内の各所で植栽することが主な活動となっているが、横浜市、名古屋市、東京都日の出町、全国池田サミット参加市町など、要望があれば全国各地どこへでも配布している。それに伴い配布先との交流会も開催されている。特に横浜市磯子区育成会とは相互訪問をするまでになった。

また、全国緑の少年団活動発表大会、東海地区みどりの少年団サマージャンポリー、森林愛護少年団交流会、岐阜県みどりの祭り、揖斐緑と水のまつりなど各種のイベントに子供たちが参加することにより、見聞を広めるなど、かけがえのない心の財産となっている。

また、池田町みどりの少年団として、優良森林愛護少年団、国土交通大臣表彰、みどりの奨励賞、緑化功労

者表彰、桜功労者、小さな親切実行章など数々の表彰を受けて、子供たちの自信にもつながっている。私たち関係者にとっては、何よりも子供たちの笑顔を見ることができて嬉しい。

3. 桜の木を育てる苦労は

当初、種がなかなか発芽しなくて全滅することもあった。作業の流れとしては、サクランボ拾い、種洗い、種の取り出し、種まき、水やり、肥料、草取り、わら敷き、日除け作業、苗の植え替え、支柱建てなどの手作業を毎日行うことは大変だが、試行錯誤しながら徐々に発芽率が向上してきた。

4. 今後の活動への思いは

目標としては毎年町内に50本程植栽していきたい。今年度は、東日本大震災で被災した陸前高田市に

100本送り、更には全国の方々にも要望があれば配布し、その地域の方々との交流もしていきたい。また桜は、毎年4月になると花が咲きますので、その下で皆さんが喜んでいただけることや、作業をすることにより地域のつながりが深まって行くことも有り難いことだと思いますので、継続して宮地小学校の子供たちと共に活動していきたい。

(土川 博)



美濃池田桜を育てる会の皆さん（大津谷）

編集後記

新年明けましておめでとうございませう。

この言葉は、年齢を重ねて来ますと新鮮味が薄れて来るような気がしますが、昨年の東日本大震災で被災された方々には、本当にお気の毒に思いますが、どのような気持ちで新年を迎えられたのでしょうか。

被災後の状況を見ていますと、改めて人と人のつながりや地域のつながりが大切なことだと感じました。またボランティアの活躍を見ておきますと、日本人の忘れかけていた思いやりの心を思い出させてくれます。

被災者の方々にとりましては、年が変わることをきっかけに再スタートが出来ることを願うばかりであります。

我が町においては、昨年はお陰様で大きな災害もなく、過ごしてきましたが、いつ起こるかもしれない災害に対処出来るような体制を整えていなければと感じています。

我が家があり家族が居て、今年もお正月を迎えられましたことを感謝し、皆様方にとりまして、本年も幸多き年となることをお祈りいたします。

(土川 博)